

# みんなで楽しむ「さめリンピック」 ～ポッチャで始まる地域づくりと学校理解～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
青森県立 八戸高等支援学校	八戸高等支援学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 3名 2名	八戸高等支援学校 鮫地域協働活動



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

地域住民を対象に校内カフェを月1回開催し、食品加工と接客の実習を行っている。地域コーディネーターから「鮫地域は高齢者が多く、今後は高齢者との活動も考えた方がよい」との助言を得て、昨年度はポッチャによる「さめリンピック」を開催し、高齢者を含む地域住民との交流を図った。今年度は、さめリンピックと校内カフェとを組み合わせることで活動に幅と変化をもたせ、本校やパラスポーツへのさらなる理解と啓発を図りたいと考え、教育課程に位置付けて実施することとした。

### 目標や目指す姿(学校)

地域社会の中で自分らしく活躍する生徒

### 目標や目指す姿(地域)

老いも若きも障害者も誰もが輝く鮫地域



## 八戸高等支援学校学校運営協議会 の特徴

### 委員の立場や属性等

- |                                     |                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 連合町内会代表者   | <input type="checkbox"/> 元特別支援学校校長 |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | <input type="checkbox"/> 近隣障害者施設長  |
| <input type="checkbox"/> 商工会・企業関係者  |                                    |
| <input type="checkbox"/> 大学教員       | など、計 <b>10</b> 名で構成                |
| <input type="checkbox"/> 近隣小・中・高校職員 | 年間平均 <b>4</b> 回程度開催                |

### 効果的な運営の工夫

本会を実効性のある協議、活動にするためには、まずは委員に、地域の実情とともに、本校や障害についての理解を図り、「何ができるのか」「何が必要なのか」ということを知ってもらう必要がある。そこで、一定期間、委員の固定化を図り、毎年度最初の会議では、授業等の見学や体験を実施するようにしている。また、本校では、会議を年4回開催し、PDCAサイクルを取り入れ、計画、活動、評価、改善を図り、よりよい学校や地域の活性化を目指している。会議には、地域学校協働活動を効果的に進めるために、近隣の小・中・高等学校にも参加していただき、地域学校協働活動に加わっていただくよう要請している。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

本会では、熟議において具体的な活動に関する情報を共有している。「さめリンピック」は学校側から提案し、委員の賛同を得た。さらに委員からは「事前にパラスポーツの体験してみたい」、「実施競技は複数ではなく、ポッチャに絞ったほうが良い」、「様々な立場の方が気軽に参加できるように、用具の貸し出しをしてほしい」などの建設的な意見・要望が出され、それぞれ実施することとした。



本校学校運営協議会

### 地域学校協働活動

まず、学校運営協議会委員がパラスポーツを体験し、理解を深めた。性別や年齢等に関係なく参加できる競技、ポッチャを取り入れた「さめリンピック」では、学校運営協議会委員も周知に協力し、本校生徒のほか、地域の青年会や老人会、近隣の高校生、地域住民などが多数参加して、盛況に開催することができた。



さめリンピックの様子

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校で提案した地域学校協働活動について、学校運営協議会においては、地域の様々な立場の委員との熟議をとおして、より実効性のある計画(P)に仕上げている。その後、計画に基づき活動(D)に取り組み、活動後は、参加者のアンケートなどをもとに、学校運営協議会の中で検証(C)、次回に向けての改善(A)を行うなど、一体的な実施のための工夫を行っている。「さめリンピック」の実施については、学校運営協議会で練り上げた計画に沿って、地域コーディネーターが窓口となり、青年会や老人会、高校、地域の公民館等、関係機関を訪問・連絡するなどして、実施に結びつけた。また、実施後の学校運営協議会では、「開催の継続」についての意見・要望が出され、継続して開催するために、イベントとして行うのではなく、教育課程に位置付けて実施するよう、改善を図った。

## 取組

## 成果・効果

これまでの地域学校協働活動では、その活動に関係する特定の地域の人や物との関わりが中心であったが、ポッチャによる「さめリンピック」を計画、実施したことで、本校生徒にとっては、幅広い年齢層の地域住民との交流を楽しむことができた。また、地域の方々に対しては、本校や生徒の障害の様子、ポッチャをはじめとするパラスポーツについて、理解を広げることができた。さらに、地域内での協力関係が深まり、地域の活性化につなげることができた。今後も活動を継続していくことで、本校の教育活動を広く地域に知ってもらうだけでなく、生徒と地域の人々との関わりが広がり、生徒の体験活動の拡大や充実が期待できる。